

AI × 犯罪予防



課題

- ・ 高齢者の間でのスマホの普及や、核家族で自宅に居ることが増えた高齢者が多くなり、それを狙った**詐欺**が増えている。



現状①

高齢者をターゲットとした**特殊詐欺**は少なくない。

一人暮らしの高齢者には、周囲に相談できる人が少ないことが多いため、特に消費者トラブルに巻き込まれることが多い。



現状②

・犯罪被害の現状

2018年における、全被害認知数に占める高齢者の数は
15.3%

つまり総被害認知数の**6.5人**
に1人は高齢者との計算になる。

図1-2-4-5 65歳以上の者の刑法犯被害認知件数



資料：警察庁の統計より内閣府作成。

現状③

表1-2-4-6 特殊詐欺の認知件数・被害総額の推移（平成22～令和元年）

区分	年次	平成22	23	24	25	26	27	28	29	30	令和元
認知件数（件）		6,888	7,216	8,693	11,998	13,392	13,824	14,154	18,212	17,844	16,836
オレオレ詐欺		4,418	4,656	3,634	5,396	5,557	5,828	5,753	8,496	9,145	6,697
キャッシュカード詐欺盗										1,348	3,773
被害総額（億円）		112.5	204.0	364.4	489.5	565.5	482.0	407.7	394.7	382.9	301.5

資料：警察庁の統計による。令和元年の値は暫定値。

（注）特殊詐欺とは、被害者に電話をかけるなどして対面することなく信頼させ、指定した預貯金口座への振込みその他の方法により、不特定多数の者から現金等をだまし取る犯罪（現金等を脅し取る恐喝及び隙を見てキャッシュカード等を窃取する窃盗を含む。）の総称。キャッシュカード詐欺盗は平成30年から統計を開始。

・特殊詐欺の認知件数

振り込め詐欺の2019年の被害者のうち**65歳**以上は**83.4%**を占めている。

オレオレ詐欺に限ると**97.4%**に達している。また「キャッシュカード詐欺」では被害者の**93.7%**以上が**65歳**以上になっている。

問題点

- ・この状況が続くと……

高齢者の資産を狙う悪質商法や詐欺被害が後を絶たない！



全体のフロー

・ステップ①

音声認識エンジンで、テキスト化された会話内容を即座に言語分析エンジンが解析。特殊詐欺でよく使われる単語や文脈で判定を行う。

・ステップ②

疑わしい場合には本人や親族を初め、登録された人に注意喚起メールを送信する。

・ステップ③

通話内容を録音

必要とされるデータ①

AIの解析・判定については、「警察と連携し、**特殊詐欺犯がよく使う最新の用語**を使って学習させる」ことで精度を高める



必要とされるデータ②



親族や予め登録された人に、利用者は特定の操作を行わなくてもアプリが通知してくれる。

必要とされるデータ③

録音されたデータは利用者のアプリを通して集計され、
警察の捜査にも役立てられる。



まとめ

- ・ AIを利用した対策であれば、**本人が違和感を感じなかった場合**でもすぐに注意喚起を受けることが可能。
- ・ 高額な振込を求められるような**深刻な問題を相談する人が身近に居ない**高齢者でも安心。

AIによって

遠方でも見守ることのできる手段の一つとしてこのAI機能が活躍するのではないかと考える。



AI × 犯罪予防 = 安心できる未来